

2 実現したい6つの教育環境

学ぶ内容や方法が変わっていく中で、将来の環境変化にも柔軟に対応できる学校施設を整備します。



6つの目標を実現します

基本計画では、推進計画に定める「学校施設整備の基本的な考え方」「適正規模・適正配置の基本的な考え方」「新たな通学区域」の3つの要素を踏まえつつ、各地区の新たな学校づくりを着実に進め、

町田市立学校を取り巻く環境変化に柔軟に対応できるよう、6つの教育環境の実現を目標とします。

現在、そして未来を見据えた新たな学校づくりを行うことで、児童・生徒だけでなく、地域の方にも魅力のある学校をつくっていきます。



教育活動への支援や放課後活動、地域の活動を通じて、多様な人々が学校に集い、交流し活動する愛着ある地域の拠点とします。さらに、民間の力を導入することで子どもだけではなく大人も集う学校を実現します。



学校経営には、教員はもちろん、教員以外の人材が不可欠です。施設環境の整備を通して、教員の多忙化に対応するとともに、学校を支えるチーム体制の構築を推進します。



児童の人間関係や多様な考え方に触れ、学び合い、切磋琢磨する機会の充実という観点や、教員の指導體制の充実や学校運営に関する業務の分担という観点から、小学校においては、望ましい学級数として1学年あたり3～4学級の実現を図ります。



新たな小学校は、今後80年使用することを想定し、学校教育にかかる諸制度の改正や将来の予測が困難な状況においても柔軟に対応することができる教育環境を整備します。



特別な支援を必要とする児童に対しては、学校施設の建替えを行う全ての小学校に、「知的障がい特別支援学級」「自閉症・情緒障がい特別支援学級」の設置及び必要な環境整備を行います。

学校施設の老朽化への対応は喫緊の課題です。将来にわたって子どもたちの学校における安全を確保し、安心して学校生活を送ることができる学校施設環境を整備します。

これからの教育に必要な環境

学校を取り巻く環境は、時代とともに変化しています。教育内容も変化しており、読み書きや計算、知識や技能の習得のほかにも、協働的な学習で思考力、判断力、表現力を養うことが求められています。総合的な学習や習熟度別の少人数指導、小学校における外国語の教科化、ICTを活用した教育活動の推進など、変わりゆく教育内容の変化にも柔軟に対応できる教育環境が求められています。

ICTの活用

子どもたち自身がICTを自在に使うことで議論や意見発表を行い、理解を深めていく未来型授業やAI技術を活用した一人ひとりの理解度、習熟度に応じた学びを進めています。ICTを活用し、これからの時代に必要な「課題発見・解決力」「創造性」を育む「新たな学び」を創り出していきます。

オープンスペースの活用

グループ学習や学年合同の学習など、多様な授業展開が可能であり、授業以外でも学年集会や異学年交流の場として活用します。また、子どもたちが休み時間の活動の場として活用することができ、教員間での情報共有や相談の場としても活用します。

ラーニングセンターの活用

壁面全体に教材や動画などの投影が可能な大型提示装置を設置し、図書や視聴覚教材などの多様なメディアを活用できるようにします。話し合いや発表などの協働的な学習を通して、子どもたちの思考力や表現力を育みます。

